

平成 27 年 5 月 12 日

各位

会社名 株式会社 新生銀行
 代表者名 代表取締役社長 当麻 茂樹
 (コード番号 : 8303 東証第一部)

平成 27 年 3 月期通期業績について ～通期業績目標を達成、前期比 264 億円の増益～

当行の、第二次中期経営計画(平成 26 年 3 月期から平成 28 年 3 月期)の 2 期目である平成 27 年 3 月期通期(12ヶ月)の連結当期純利益は 678 億円となり、前期比 264 億円の増益となりました。単体当期純利益は 457 億円となり、前期比 92 億円の増益となりました。配当は 1 円の期末配当を予定通り実施いたします。

損益の状況(連結)

(単位:億円)

	平成27年3月期 通期(12か月)	平成26年3月期 通期(12か月)	増減額
業務粗利益	2,353	2,030	323
経費	△1,416	△1,328	△88
実質業務純益	936	701	234
与信関連費用	△118	△2	△115
その他利益(△損失)	△5	△142	136
うち、利息返還損失引当金繰入額	△40	△156	115
当期純利益	678	413	264
キャッシュベース ¹ 当期純利益	754	498	255

¹ 純利益からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形固定資産償却額とそれに伴う繰延税金負債取崩額を除いたもの

業績

- **業務粗利益**は、2,353 億円となり、前期比 323 億円増加。このうち資金利益は 1,264 億円で、調達コストの減少による純資金利鞘の改善に加えて、法人部門において大口の有価証券配当収入の計上があったことなどにより、前期比 159 億円増加。非資金利益は 1,088 億円で、ALM 業務を含む市場関連取引からの収益が改善したことに加え、消費者金融ファイナンス業務において割賦収益が増加したことなどにより、前期比 163 億円増加。
- **経費**は、業務基盤の拡充を図るために必要な経営資源を投入した結果、前期の 1,328 億円から 88 億円増加し、当期は 1,416 億円。
- **与信関連費用**は、消費者金融ファイナンス業務での貸出増加に伴う貸倒引当金の繰入や法人向け業務における貸倒引当金繰入額の戻り益の減少などの結果、前期の 2 億円から 115 億円増加し、当期は 118 億円。
- **その他損失**は、消費者金融ファイナンス子会社において、利息返還損失引当金を前期は 156 億円繰り入れたのに対し、当期は 40 億円の繰り入れであったこともあり、前期の 142 億円の損失から 5 億円の損失に改善。
- **連結当期純利益**は、前期の 413 億円から 264 億円増益となり、当期は 678 億円。
- **単体当期純利益**は、前期の 364 億円から 92 億円増益となり、当期は 457 億円。
- **総資産**は、平成 26 年 3 月末の 9 兆 3,211 億円から 4,312 億円減少し、平成 27 年 3 月末は 8 兆 8,898 億円。

資本および資産の質

- **自己資本比率**は、内部留保の着実な積上げや不良債権の削減などにより、連結コア自己資本比率は平成 26 年 3 月末の 13.58%から平成 27 年 3 月末の 14.86%に、1.28 ポイント改善。
- **不良債権比率**は、不良債権残高を平成 26 年 3 月末の 1,647 億円から平成 27 年 3 月末の 609 億円に 1,038 億円削減した結果、平成 26 年 3 月末の 3.81%から平成 27 年 3 月末の 1.42%に 2.39 ポイント低下。

平成 28 年 3 月期通期業績予想

- ◇ 平成 28 年 3 月期連結当期純利益² 予想は 700 億円、同キャッシュベース¹ 当期純利益² 予想は 760 億円。
- ◇ 単体当期純利益² 予想については、420 億円。
- ◇ 配当は経営健全化計画どおり、期末 1 円配当を予想。

² 企業結合に関する会計基準の改正を踏まえ、当期純利益、キャッシュベース当期純利益については、平成 27 年度より、親会社株主に帰属する当期純利益、親会社株主に帰属するキャッシュベース当期純利益へそれぞれ表記が変更される

当期決算の詳細については、以下当行 URL(「IR 情報」メニューの中の「四半期決算情報」)をご覧ください。

URL: http://www.shinseibank.com/corporate/ir/quarterly_results/index.html

以上